水辺の管理と利用





2012年11月06日　島本地区
撮影 / 石山郁慧

大阪工業大学　教授　綾 史郎

わたし達が生物観察会や外来種駆除活動を行う水辺には河川や湖、池などがあります。河川は自然公物であり、河川法により治水、利水、河川環境の整備と保全を目的として、国や府県・市町村によって管理されています（所有されてはいません）。1級水系（河川）は国土保全上または国民経済上特に重要な水系として国土交通大臣に指定されたものであり、淀川水系など全国に109水系、14000程度の一級河川があります。管理者は国土交通大臣です。一級水系以外の水系は二級水系であり、府県知事が管理者です。河川法の一部を準用し、市町村長が管理するものが準用河川です。河川法の適用を受けない小河川を普通河川といい、市町村が管理しています。

一級水系（河川）の特に重要な区間は国土交通大臣の直接管理区間ですが、その区間外は通常の管理を都道府県知事に委任され、指定区間といいます。大阪府下には淀川、大和川の二つの一級水系があります。淀川水系では本川と支川の一部が国土交通大臣（淀川河川事務所）管理ですが、旧淀川や芥川や天野川といった支川の大部分は大阪府知事（大阪府都市整備部）に委任管理されています。府南部の近木川や男里川は府知事管理の2級河川です。琵琶湖も一級河川で、滋賀県知事に管理委任されています。新淀川や天ケ瀬ダム貯水池は洪水被害の軽減等のために人工的に建設されたものですが、河川であり、大臣管理されています。

農業や発電など利水・導水のための水路やダム湖は河川に似ていますが、その目的も明確であり、所有者がいますから河川ではありません。しかし、河川と接続しており、部外者には一見して区別できないこともあります。河川を棲み家とする生物にとっては水の連続性こそ重要であって、管理者、所有者は関係ありません。河川同様の生態環境の保全が必要とされます。また、河川のような自由使用はできないので、使用しようとする時には所有者の許可を得る必要があります。

来た・見た・聞いた　淀川雑記帳

中面でコラム執筆をお願いした砂村栄力さん。私が特定外来生物を追いかけているのを知っている生物好きの友達から紹介されたのだが、まさかアリだけを見つめている人と出会うとは思わなかった。本人いわく、アリを研究していると陶酔状態になるらしい。他に何も要らないぐらい面白い、一生のネタだそうだ。　その話を聞いてから私は、東京大学大学院卒の彼を、密かに「アリ人間・リッキー」と呼んでいる。

少し先の話になるが、来年の2月にあくあぴあ芥川で「特定外来生物のお話」を開催する予定である。その際に彼をゲストに招こうと企んでいる。まだあまり知られていないアルゼンチンアリの生態について、動画や写真を満載にして発表してもうつもり。セアカゴケグモのように毒があるわけではないが、家の中に入られたら大変不愉快な虫らしい。皆さんも、もっと知りたくないですか?
（編集長・石山郁慧）

河川と環境の法律相談所
legal advice

犬の散歩のマナー

人を自然に近づける川いい会　弁護士　藤原 武士

田舎で育ったからかもしれませんが、私が小さい頃は、犬を散歩させている人が排泄物をゴミ袋に入れて持って帰っていることが少なかった気がします。遊びに夢中になって、うっかり踏んだりもしました。最近では、マナーが向上されて、ほとんどの人がゴミ袋持参で散歩させており、ペットボトルの水で、道を洗い流す人を見ることもあります。さて、ペットの排泄を片付けないことは法律に違反するのでしょうか。軽犯罪法１条２７号では「公共の利益に反してみだりにごみ、鳥獣の死体その他の汚物又は廃物を棄てた者を拘留又は科料に処する」と定められています。犬の糞を持って帰らなかった場合、形式的には法律に触れることになります。実際には、よほど悪質ではないかぎり、警察も問題としないと思いますが、法律上で問題とされないからこそ、マナーとして自覚しておかなければなりません。ルールを守って、ペットと気持ちよく散歩してくださいね。

川と人　人と人を結ぶ
淀川管内 河川レンジャー
VER RANGER

デザイン監修：NPO法人nature works　泉野幸彦・ありさだあきよ
イラスト監修：NPO法人nature works　小村一也
取 材 協 力 ：人を自然に近づける川いい会
発 行 支 援 ：国土交通省 淀川河川事務所

バックナンバーは、http://npo-natureworks.net/　の「無料の資料」からダウンロードできます。

淀川自然画報
2014年7月号
No.8
淀川水系の生物多様性を
見る・知る・楽しむ
生きものシグナル
YODOGAWA SHIZEN GAHO

水辺の博物誌



ストライプスーツの洒落た虫

アカスジカメムシ　*Graphosoma rubrolineatum*

黒色に５本の鮮やかな赤い縦すじをもつ派手なカメムシ。初夏から真夏にかけて、シシウドやヤブジラミなどのセリ科の花に、多くの個体が群れている姿を観察できます。この目立つ模様は、鳥などの捕食者に毒々しさをアピールするための警戒色ですが、人の目から見れば小さく美しい昆虫です。（画 / 原　素子）

発行責任者　淀川管内河川レンジャー・石山郁慧

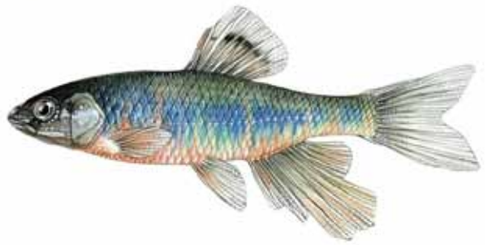
多種多様、淡水魚たちの生態と生活史

淀川水系魚類名鑑

希少野生動植物保存推進員
横山 達也

オイカワ

Opsariichthys platypus



幼少のころ本種のオスを捕まえた際、繁殖期の婚姻色のあまりの美しさに、たいへんな衝撃を受けた思い出があります。と同時に、家に持って帰ろうと何度かチャレンジしましたが、途中で殺してしまうことが多かった魚でもあります。同じような経験をされた方もいらっしゃるのではないかと思います。とくに夏季、採集後の輸送が難しい魚です。成魚になると体長15cmほどになります。釣りの対象としても人気があり、ハヤ、ハエなどと呼ばれ、川魚のなかで最もポピュラーな魚です。分布は本州中部以西、四国の吉野川水系、九州に自然分布し、朝鮮半島、中国大陸の東部、台湾にもいます。体は背中が灰青色、体側から腹側は銀白色で、体側に淡いピンクの横斑が数本入るのが特徴です。5～8月の繁殖期になると、オスは顔が黒くなり、体側が水色、腹付近がピンク、尾びれを除く各ひれの前縁が赤という独特の婚姻色が現れ、さらにオスの尻びれはメスよりも大きく伸長し、またオスの顔には追星と呼ばれる白い突起が現れます。一方、メスは、繁殖期にかかわらず年中、地味な体色をしており、繁殖期は体の色で簡単に雌雄を識別することができます。



熱帯魚のような
派手な体色は、川の中でも
ひときわ目立つ

食性は雑食性で、藻類や水草、水生や陸生の落下昆虫や小型甲殻類などを食べます。食用としても利用され、甘露煮、天ぷら、南蛮漬けなど、冬季は特に美味です。ぜひ皆さんも、一度、繁殖期のオスの美しさをご覧ください。これからの季節がおすすめです。必見に値します。

※オイカワはオイカワ属→ハス属になり、学名が変わりました。

under the water

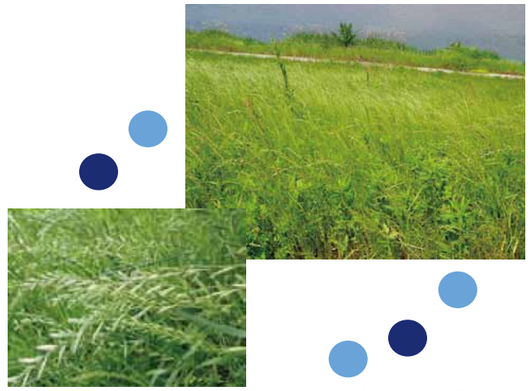
花想鳥感

四季折々、水辺の生物多様性

芥川緑地資料館　主任学芸員
高田 みちよ

堤防に生えるイネ科

淀川の堤防や河川公園を歩くと、細長い葉っぱの草がたくさん生えていますよね。それはイネの仲間の草です。その大部分は外来種です。外来種のイネ科植物は、ネズミムギ、イヌムギ、カラスムギ、シマスズメノヒエ、オニウシノケグサ、セイバンモロコシなどなどです。これらは法面（斜面）の緑化植物や牧草として輸入され、盛んに植えられてきました。日当たりのよい乾いた場所に生え、木影や湿ったところには生育しません。ところで、河川公園や堤防では毎年草刈りが行われているのはご存じですよね。堤防ではふつう年2回の刈り取りが行われています。植物の根は堤防の土をがっちりとつかみ、崩れにくくする働きがある一方、丈が高くなりすぎると堤防のヒビや傷みが見えなくなる、という困った点もあります。そこで、国土交通省では最も堤防にふさわしい草は草丈の低いシバとしています。しかしシバは強い刈込や踏みつけがない場所では他の丈の高い草に負けてしまうため、芝生を維持するためには頻繁に刈り取ったり他の草を抜いたりと、かなりの手入れが必要で、維持管理費がものすごくかかります。そこで、次善策としてシバではなくとも「ヒザ丈よりも低い草」が生育していれば良い、とし、年2回の刈り取りで草地を維持しています。年2回の刈り取りでは1年草（種を散布したあと枯れる草）が生育し、刈り取りをやめると翌年からは草丈の高い多年草（種を散布したあとでも地下部が生育し、何年も生き続ける草）が増加し、徐々に木が生えてきます。丈の低い草地を維持するためには必ず刈り取らなければなりません。日当たりも水はけもよい堤防で、年1回の草刈りのため背の高い多年草や木が生えないことが、先の外来種のイネ科にとっては非常に生きやすい環境となっており、河川の堤防には一面の牧草地のようなイネ科植物が繁茂するようになったのです。



the waterside

the sky & land

水辺の虫眼鏡

川に棲む水生生物の魅力的な生態

環境省　環境カウンセラー　川島 大助

スジエビ

淀川水系には、スジエビ、テナガエビ類、ヌマエビ類、アメリカザリガニなどのエビが生息しています。今回ご紹介するスジエビは河川の上流~中流域、水路などの淡水域に広く分布しています。

流れの緩やかな瀬や淵の水際にある植物、水草等の陰影部に生息していますので、タモ網で水際をガサガサしてタモ網に追い込む方法で採集できます。また、夜に懐中電灯で水中を照らすと、眼が赤く反射する様子をみることができます。

同じような環境には、スジエビよりも大きく、手の長いテナガエビ類が生息しています。このテナガエビ類の幼体は手が短くスジエビによく似ていますが、見分けるポイントは、スジエビは額角の上側の歯の数がスジエビ：3~8本であるのに対して、テナガエビ類：10~14本です。採集されたエビ類の額角（がくかく）の上側の歯の数を肉眼やルーペ等を用いて観察してみると、その違いがよくわかると思います。これからやってくる夏休みに、ぜひ試してみてください！



スジエビはよく動き肉食性が強い。川で採集できたら煮干しなどの餌を与えて観察してみよう!



スジエビの額角

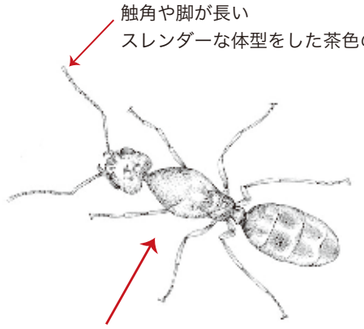


テナガエビ類の額角

the worst 100

侵略的外来生物

淀川ワースト100



掲載画は女王アリ、体長約5mm
働きアリの体長は、約2.5mm
女王アリは働きアリに比べて胸部が大きい

AN INVADER

アリ科　**アルゼンチンアリ**

Linepithema humile



淀川管内河川レンジャー　石山 郁慧

今回は、農学博士の砂村栄力さんに執筆をお願いし、写真もお借りました。詳しく知りたい方は「宝塚アリ研究所」で検索してみてください。アルゼンチンアリの博士論文がご覧いただけます。

南米原産だが、貿易貨物について世界各地に広まった。日本へは20年ほど前に侵入。海や川沿いの市街地に棲みつくことが多く、大阪府内では淀川河口の此花区でのみ生息が確認されているが、今後北上していく可能性がある。巣は土の中、石の下、コンクリートの割れ目など、いたるところに作られる。また、雑食性で何でも食べる、巣に女王がたくさんいる、といった特徴があり、旺盛に繁殖するため、とにかく個体数が多い。このアリが侵入した地域では、日本在来のアリが駆逐されていなくなる、家屋に毎日大量のアルゼンチンアリが入ってくる、などの問題が生じている。



日本在来のムネボソアリ（中央）を集団で襲う

